

保健師 最前線

子どもが健やかに 成長できる環境を

京田辺市 西川 幸子さん



出身は京都市、京都府立医科大学附属看護専門学校、京都府立保健婦専門学校へ通い、実習地だったことがきっかけで、旧田辺町の保健師となった。

現在は京田辺市こども福祉課で、次世代育成支援行動計画の進行管理や、家庭児童相談室の相談、虐待を受けている子どもを地域で支える要保護児童対策地域協議会の事務局としての業務も行っている。また、昨年作成した児童虐待対応マニュアルを活用してもらうため研修会の開催、街頭啓発など多くの業務により多忙な毎日を送っている。

「保健師としての本来の役割を意識していく必要がありますね。」

15年前に市制に変わり、地域分担制から業務分担制に形態が変わった中で、特定の業務に特化することで精度を上げることができるようになったという。しかしその半面で、地域全体の問題をいかに捉えるかが課題となり、同時に、新任保健師たちに対して保健師の意義、公衆衛生の観点から地域活動の重要性などをどのように伝えていくか、現場における人材育成について模索している。

地域の保健師として、保健と医療と福祉の間を埋める「のりしろ」のような存在、必要な人に、必要な制度、人、ものをつなぐ存在が目標だそう。そのために、地域へ寄り添い、住民の求めることを察知するよう努めている。

「次の世代を担う子どもたちは、体も心も健康に育ってほしいですね。」

そのため母子保健が今後より一層重要になってくるという。ちょっとした問題でも虐待など大きな問題へ発展するきっかけになりうるため、母子保健の段階で身体面だけでなく、精神面もしっかりとケアし、後に課題を残さないよう心がけている。大事なことは、起こってから動くのではなく、事前に防げるように前もって行動することだそう。

理想とするのは、母子や家庭だけでなく、家庭を取り巻く社会環境すべてが子どもにとって健やかに成長できる場となること、そして、制度でも覆い切れない部分は親だけでなく地域の大人たちによってカバーされることだ。子どもが笑顔で育つ理想の環境に向けてこれからも努力したいと笑顔で力強く語った。